

議会だよりせら

～ あなたと議会のコネクトブック～

2025
11.15
No.83

ともに歩む

せらの未来

ー福祉がつむぐつながりー



トピック 01 P2～3

獣友会との
意見交換会開催

トピック 02 P4～7

令和6年度
決算審査

トピック 03 P12～13

視察研修など
委員会活動報告

表紙紹介は裏表紙へ

狹友会との意見交換会を実施！



獣害の拡大により、実施隊は被害防止に重要な役割を果たしているが、隊員の高齢化と後継者不足が課題となっている。令和7年6月26日、議会広報広聴常任委員会が実施隊の皆さんに集まつていただき、取組状況や課題について意見交換を行った。

(テーマ) 実施隊における鳥獣被害への取組みは

Q 実施隊の出動状況や活動内容を教えてください。

A わな班が旧町単位で9名ずつの27名、銃班は現在14名（定員20名）が活動しています。活動状況ですが、わな班は、毎日見回りを実施し、銃班は昨年140日程度出動（月平均12日程度）しました。猪・鹿を合わせて年間1700頭程度を町内で捕獲しています。

Q 出没しやすい地域などがあるのでしょうか。

A 生き物ですので、エサが豊富な地域や対策が不十分な地域は集まりやすいと思います。

Q 捕獲する上での苦労などがあれば教えてください。

A わなで言うと、足跡・食害・通り道などで判断しますが、広い山の中で片足分のわなを仕掛ける難しさがあります。銃で言うと、依頼があり出向いてもすぐに移動していて、捕獲に何日もかかる場合があります。また、動いているものを仕留めるので、正確な判断と技術が求められます。

Q 獣師を続けるには経済的負担が大きいと聞きますが。

A わなや鉄砲（新品30～40万円）の狩猟道具、車両、燃料費、獣犬、無線機、免許取得や更新料などが費用として発生します。特に獣犬は、1匹30万円以上かかり、えさ代やけがの治療費などに相当な費用が必要となります。1日の出動報酬（町補助金）は4500円ですが、道具や車両、出動に要する燃料費はすべて個人持ちとなるので、獣師側の負担が大きいと感じています。

Q 高齢化が進んでいると聞きますが。

A 山での獣は、斜面の移動や獲物の運び出しなど体力が必要ですが、高齢化が進んでいるため後継者を必要としています。しかしながら、獣師を続けるための維持費や時間的拘束などが負担となり、狩猟免許を取得しても途中でやめる若者がほとんどです。

Q その他、何か伝えたいことはありますか。

A 駆除というのは「地元を守るという使命感」で行っています。駆除中に獣犬がご迷惑をお掛けすることもありますが、依頼を受けて行っていることをご理解いただきたい

いと思っています。
A 駆除活動を行うにはそれに見合った報酬がないと、獣師を目指す人も実施隊に入りたいと思う人も、増えていかないと思います。

委員会コメント

今回いただいたご意見、課題などを議会内での議論につなげ、議会及び議員活動に活かしていくと共に、行政にしっかり届けます。

駆除出動（銃班）に密着



令和7年9月30日早朝、動物の動向をチェックして当日の場所を決定。準備を行い、獣犬の追い出しで獲物を探していきます。動物も移動するため獣師側も常に移動しながら追跡します。途中「ダムを泳いで逃げている」との情報も入りました。残念ながら、午前中ののみの同行だったので結果を見ることはできませんでしたが、緊張感のある半日を過ごしました。



猪・鹿の捕獲状況（実施隊及び個人）

単位：頭数

獣種	捕獲種別	R4年		
		R5年	R6年	
猪	銃	172	141	83
	わな	405	189	320
	くくり罠	367	210	254
	総数	944	540	657
鹿	銃	28	49	69
	わな	187	176	190
	くくり罠	588	650	724
	総数	803	875	983
猪・鹿の合計		1747	1415	1640



猪捕獲のための箱罠

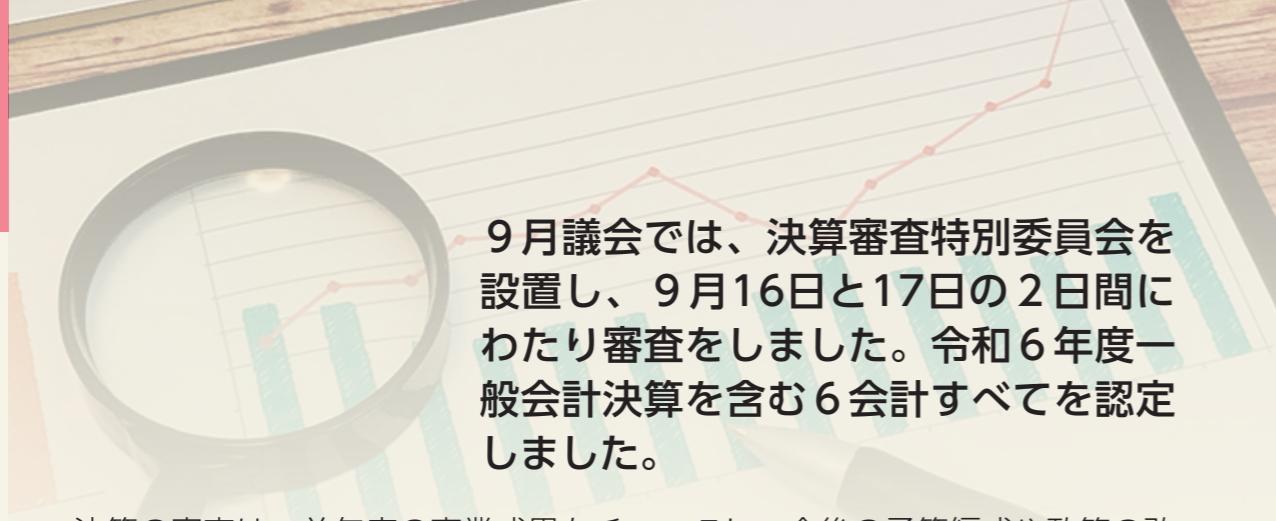
被害防止対策補助事業の申請利用実績（侵入防止柵設置等）

単位：万円

事業別	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	件数	事業費	補助金額	件数	事業費	補助金額	件数	事業費	補助金額
国費事業	2	516	516	0	0	0	4	542	542
町費事業	112	1429	432	130	1659	497	107	1378	399
合計	114	1945	948	130	1659	497	111	1920	941



せらら ©世羅町



決算の審査は、前年度の事業成果をチェックし、今後の予算編成や政策の改善に生かすとても重要な作業です。令和6年度は、病児保育事業や救急センター事業など新規事業を含む様々な事業が実施されました。

予算の使い方、事業の進め方は適切か。10人の決算委員が厳しい目でチェックし、未来のまちづくりにつなげていきます。

令和6年度決算の詳細は
「広報せら10月号」へ



新規事業をピックアップ！

令和6年度
利用件数 **91 件**



救急相談センター運営事業 [#7119]
決算額 約 40 万円

急なケガや病気で判断に迷ったとき、専門家のアドバイスで町民の安心と適正な受診につなげます。

質疑 Pick up!

Q 利用状況は

A 医療機関の案内が28件、救急医療相談が54件。救急搬送件数や医療機関への問い合わせの削減、救急車の適正利用、受診の適正化に有効活用されています。

令和6年度
利用件数 **26 件**



生ごみ処理機等購入補助事業
決算額 約 34 万円

ごみの減量化を推進するため、家庭における生ごみ堆肥化の容器並びに処理機の導入に対し、購入費用の一部を補助します。

質疑 Pick up!

Q 利用件数は

A 電動生ごみ処理機16件、生ごみ堆肥化容器（コンポスト）10件

令和6年度
交付決定件数 **227 件**



家庭の LED 照明器具などの
買い替えを補助

家庭用 LED 照明器具等買替補助事業
決算額 約 191 万円

脱温暖化を推進するため、家庭におけるLED照明器具などの買い替えに伴う器具の設置や電球の購入費用の一部を補助します。



質疑 Pick up!

Q 決算額が当初予算額を超えた理由は。

A 当初予算額は180万円でしたが、多くの申請があったので期限を定め、期限までの申請分を補正予算化し対応しました。227件申請分の全てを交付決定しました。

病児保育事業
令和6年度 不用額 **364 万円**
(※不用額=予算化したが使わなかったお金)



乳幼児および児童を育てる
保護者の就労等を支援

病児保育事業

決算額 約 1485 万円

病気や体調不良等により集団生活が困難になった乳幼児や児童を、保護者に代わって公立世羅中央病院内で看護師などが看護や保育を行い、保護者の就労支援等を図る事業です。

利用状況 病児 30 人・病後 31 人
延べ 61 人の利用



質疑 Pick up!

Q 不用額の理由は。

A 保護者の依頼で看護師などがタクシーなどで送迎するサービスを約364万円見込んでいたが、利用者が2名、利用額が2850円にとどまったため。

令和6年度
申請件数

決算額

0件
0円

タクシー事業者に福祉車両の
導入経費を補助

タクシー事業者福祉車両導入促進事業
予算額 345万円

町内のタクシー事業者に対し、福祉車両の導入経費の一部を補助することにより、福祉車両の普及促進を図ります。高齢者、障害者などの公共交通機関の利用環境を改善し、住み慣れた地域で安心して外出できるよう支援を行います。



写真はイメージです



写真はイメージです

質疑 Pick up!

Q 決算書に決算額の記載がないが。

A ひとつの事業者から、国の補助事業もあわせて活用し、新車の福祉車両を導入したいとの要望がありました。しかし、車両の生産が追いつかず導入を断念されました。現在も引き続き検討されています。

令和6年度
町税収納率

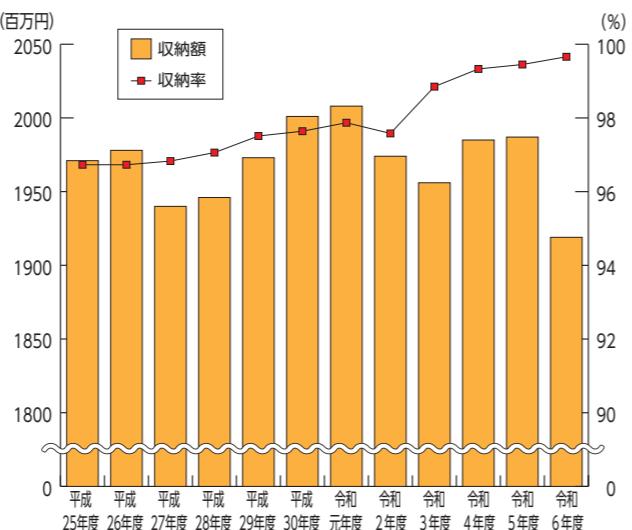
99.94%

県内1位の収納率

質疑 Pick up!

Q 税の収納に関する考え方は。

A 法人町民税は4年連続、軽自動車税は3年連続100%収納、現年収納率も99.94%と県内トップです。(町民のご協力により) 大多数は期限内納付ですが、滞納者には督促・催告を行い、必要に応じ差押などで回収しています。職員の努力により確実な収納に努めています。



令和6年度
基金利子収入 約1514万円

約18億円の基金を運用

質疑 Pick up!

Q 基金の運用状況は。

A 財政運用収入は定期利息や債券利子で、内訳は財政調整・まちづくり振興など各基金を合計し、約1514万円です。

令和6年度決算

賛成 田原賢司議員

税収の確保が順調で、県内でも高い収納率を維持しており、滞納額も大幅に減少しています。これは職員の努力の成果であり、高く評価いたします。一般会計においては不用額も一時5億円近くあったものが2億6000万円余にまで縮小し、適正な執行がなされたと思います。今後は、人件費や扶助費の増加を見据え、限られた財源を有効に使い、補助金や負担の見直し、民間活力の導入など、より効率的な行政運営を進めるべきです。

町民の理解と協力のもと、健全な財政運営と幸福度の向上を期待し、賛成いたします。

賛成多数で認定

討論

反対 矢山靖議員

一般会計と特別会計の合計では、約4億4700万円という大きな不用額が出ており、予算見積もりの精度や執行の在り方に問題があると思います。使用料収入の乖離や未収金の発生も見られ、収入管理が不十分です。子育て支援事業では利用が伸びず、不用額が生じました。周知不足や制度設計の甘さがあったのではないか。教育のICT化も成果検証が不十分です。周知の弱さ、予算精度の低さ、不用額の多さなど課題が多く、住民本位の予算執行とは言えません。国保や介護でも基金が積み上がる一方、住民への還元が足りません。

町民の暮らしに寄り添っていない決算として、反対いたします。

監査委員による決算審査意見

不納欠損処分の状況

税や保険料の不納欠損額は年々減少している。現状のような収納対策の継続が必要です。

※不納欠損(ふのうけっそん) 処分…徴収が不可能になった債権を整理し、決算上の不納欠損額として計上するための手続き

収入未済額

収入未済額については、減少傾向にあり、収納対策に努められています。引き続き早期に対応し、未納や不納欠損処分に至らない対策が必要です。

※一般会計…町の基本的なお金の出入りをまとめた会計
※特別会計…特定の事業や資金を分けて管理する会計

不用額の状況

予算のうち、使われなかつた額(不用額)は、減少していますが、事務事業のうち、中止・変更・延期の場合は、減額補正を行うなど予算管理が必要です。

公有財産の整理

不要な土地の処分は進められているが、建物については、統合・譲渡を含め早急な対応が必要です。

※公有財産…町が持っている土地や建物などの資産

町税の収納状況

町税全体の収納率は、県内23市町において最高位であります。高い収納率の維持により、住民の利益と負担の公平性を保持していただきたい。

※収納率…集めるべきお金のうち、実際に回収できた割合

収入未済額の債権管理

収入未済額の回収に向けた体制の構築、条例などの仕組みづくりと債権を管理する体制整備と連携が必要です。



甲世浄化センターを現地調査

産業建設
現地調査

下水処理施設の現状は

Q 処理槽内部の点検方法や流量計の今後の対応は。

A 処理槽内部は目視と5~10年毎にコンサルタントによる点検・修繕を行っている。流量計は処理量と排水量に大きな差が出た場合は調査しているが、概ね8年ごとに業者に依頼し点検を行っている。



せらにし郷土民俗資料館を現地調査

総務文教
現地調査

Q 収蔵品を旧西大田小学校の民族資料館にまとめることは。

A 現在は、考古資料や古民具・農具など約2000点を収蔵。近年入館者はいないが、管理運営団体が収蔵資料を活用し、講演会や展示を行っている。収蔵品が適切な数量になるよう努める。

ピースライナーの補助の在り方は

総務文教
事務調査

Q 8月末で補助が終了したが、町としての考えは。

A 甲奴・甲山～広島線高速バスのキャッシュレス化に伴い、補助対象であった往復券が販売終了となった。今後も、補助の継続のため運行業者と協議をしていく。

補助対象往復券販売枚数

対象区間 広島～田打・三川・道の駅世羅・甲山営業所・公立世羅中央病院

(単位：枚)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
販売枚数	694	2200	2769	2499
補助額	511,890円	2,559,790円	3,315,620円	2,947,730円

世羅町観光振興補助金について

産業建設
事務調査

Q 観光振興補助金の使い道は。

A 世羅町の観光を振興するため、観光関連団体や観光事業者は、観光協会を中心に連携を強化し、事業ごとに横断的な組織を形成し、一体となって取組みを推進する。

さらに、町民やNPO法人など多様な主体の参画を促し、新たな視点を取り入れながら町全体で観光振興に取組む。

令和6年度補助金の主な利用状況・利用内容

事業名	件数	補助金額	主な内容
観光イベント等支援事業	1件	297,610円	・世羅郡飲食組合が、グルメスタンプラリーを実施。
せら夢公園活性化事業	3件	1,883,034円	・春と秋にマルシェやフェスティバルを開催。 ・ファミリーリーマラソン開催。
閑散期（冬期・夜間）観光コンテンツ開発事業	1件	274,010円	・土日祝限定だったキャンドルナイトを、金曜とクリスマスも開催。
旅行博等出張支援事業	6件	120,000円	・町内事業者の観光PR出張を支援。 (海外1名、東京1名、大阪4名)
ダムカード作成支援事業	2件	160,600円	・目谷と京丸のダムカード作成し、町内5ダムのカードが揃った。
合併20周年記念事業	1件	114,223円	・マウンテンバイク日本代表を招聘し、サイクルフェスタを開催。
花めぐりバス支援事業	1件	860,500円	・ピースライナーを活用し、花めぐりバスを運行。花農園3箇所、ワイナリー、道の駅を巡る。
地域観光新発見事業（観光庁補助事業）	1件	1,100,000円	・せらワイナリーに、日本航空ファーストクラスシェフ監修メニュー。
特別体験インバウンド推進事業（観光庁補助事業）	1件	1,000,000円	・世羅高原農場と今高野山龍華寺を巡る富裕層向けツアー開発。
インバウンド対策事業	2件	158,000円	・花農園の台湾むけ（繁体字）パンフレット作成。 ・韓国人ゴルフFAMツアー。

観光誘致のための海外職員派遣について

産業建設
事務調査

Q 派遣の目的と場所は。

A 海外の旅行博への出展や商談会へ参加している。SNSなどの情報発信で世羅町の知名度アップに取組んでいる。派遣の場所は、韓国、台湾、シンガポール、タイである。



台湾などでの世羅町PR活動



7月15日・16日の2日間、福岡県の福岡市と篠栗町を訪れ、それぞれの先進的な取組みを学び、今後の町の施策に活かすための視察を行いました。

福岡市 ユマニチュードを核とした認知症施策

福岡市は、人口減少と高齢化社会の中で課題となる認知症対策のため、2018年「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を立ち上げました。その拠点施設として、認知症フレンドリーセンターを2023年9月にオープンされています。

◆ケア技法「ユマニチュード」*

認知症の方のケアを、誰か特定の人には頼るのではなく、産・官・学・民、すべての人が参加できる町を目指してたどりついたのが「ユマニチュード」です。福岡市では、認定インストラクターによる専門職・市民向け講座を開き、地域リーダーを養成。現在52名が公民館や学校などで普及活動を行っています。

*ユマニチュードとは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つを柱とした、認知症の人とコミュニケーションをとるためのケア技法。

◆オレンジ人材バンク

オレンジパートナー（認知症の方）と企業が連携し、当事者の意見を反映した製品・サービスを共同開発しています。認知症の方にも報酬を支払い、進行する病状も考慮しながら協働を進めています。

◆認知症の人にもやさしいデザイン

認知症になると、床と壁の色が同じだと空間認識ができなくなるので、トイレの扉と床の色にコントラストをつけています。扉には、一目でわかる文字とピクトグラム（絵文字）を併記して表示しています。また、視界が狭くなり高い位置では見えないので、表示を低くしています。



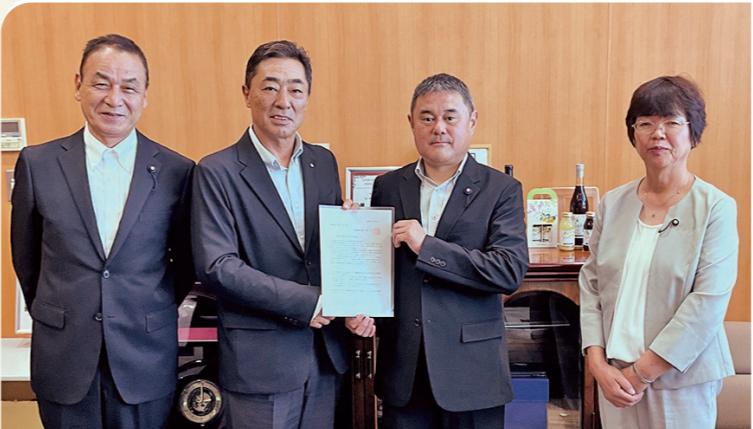
分かりやすく色分けされたトイレ

篠栗町 行政窓口業務の民間委託

篠栗町では、2013年から事業者を公募して窓口業務の民間委託を実施しています。受付・電話交換業務からスタートし、現在では、公務員が担うべき業務以外の補助的業務や各種施設運営業務、総合窓口業務などが追加されました。総合窓口業務により、たらい回しの改善と窓口のワンストップ化（一度の窓口訪問で完結できる）が図られています。

民間委託することで、事務の効率化が図られる一方で、職員の窓口業務に関するスキルの低下など課題も多いと感じました。

総務文教
行政視察



福岡市での視察をもとに 認知症における 政策提言書を町長に提出

本町でも可能なものから取入れるべきであると考え、総務文教委員会として政策提言書に取りまとめ、町長に提出しました。

提言
内容

1. 公共施設においてより過ごしやすい環境を整えるため、認知症の人にも認識しやすいデザインをトイレへ優先的に導入すること。
2. 認知症サポーターの養成講座に加えて、ケア技法ユマニチュード講座を開催すること。

議会広報広聴
研修

王寺町から講師を招へい！

令和7年度は県外視察に代えて、8月7日・8日の2日間で、議会だよりリニューアルのきっかけとなった奈良県王寺町から村田大地さんを講師に迎え、広報研修を実施しました。

初日は、王寺町の事例を通して議会広報のテ



撮影技術を学ぶ広報委員

町村議会広報研修会に参加！

8月28日、渋谷公会堂で開かれた町村議会広報研修会に参加しました。インタビュー記事の効果的な活用法や、スマートフォンによる撮影技術、議会と広報誌を連動させる取組みなどを学びました。今後の広報活動に活かしていきたいと思います。



般質問

町政を問う

10議員が質問しました

第3回定例会の9月4日・5日に一般質問を行った10議員の質問内容を紹介します。

一般質問とは？

定例会で、議員が町の施策の状況や方針などについて報告・説明を求め、疑問点を質したり政策を提案することを一般質問といいます。

質問時間は1人30分以内で、答弁時間は含みません。

動画配信は2次元コードを読み取って下さい。



※視聴環境により、通信料がかかる場合があります。

ごみ問題

福永 貴弘 議員



沿道管理

佐々木 浩康 議員



終活支援

松尾 陽子 議員



Q ごみ削減の取組みは

A 3Rの推進でごみを削減

福永 世羅町は「一人一日当たりのごみの排出量」が、全国平均と比較して3分の2と大変優秀である。要因は。

町長 町民皆様のリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の意識向上が最も大きいと考える。この3Rの更なる向上を図るべく、啓発を続ける。

福永 他市町と比較して、ごみの排出量は少ない世羅町だが、その量は毎年増えている。通常は人口減少に伴い排出量も減少すると思われるが、なぜ増えているのか。

町民課長 町のごみ総排出量の約8割が可燃ごみで、増加の主な要因は家庭からの可燃ごみである。通信販売の利用増加や空き家の片付けなどが背景にあると考える。

福永 買い物の際、エコバッグの利用が常識となったが、不意な買い物の際など、いまだレジ袋を購入する場面がある。事業者と連携して、町指定の燃やせるごみ袋をレジで1枚単位から購入できれば、ごみの削減とごみに対する新たな意識作りとして効果が高いと思われる。実証実験から始めては。

町民課長 1枚単位でのレジ販売と、買い物袋としての活用は考えていないが、「一般廃棄物処理基本計画」において、ごみの減量化目標を掲げ、その達成に向けてさまざまな取組みを進めている。リデュースでは買い物時のマイバッグ持参を、リユースではプラスチック製品の繰り返し使用を推進している。

レジ袋についても、使用後は廃棄せずマイバッグとして再使用し、ごみの減量化にご協力いただきたい。

議員コメント 残念ながら提案は見送られた。他県ではレジごみ袋化による意識啓発を進める町がある。ごみ問題の改善には、町民全員の道德観の形成が不可欠と考える。

Q 道路にはみ出す木や枝の伐採は

A 所有者へは協力を要請し緊急時は伐採する

佐々木 町民から、「木の枝が車に当たるので困る」という苦情をよく聞く。木が茂りトンネルの様になった場所も多い、早めの伐採が必要では。

町長 倒木の恐れがあるなど、緊急性がある場合は、道路管理者として伐採を行っている。

佐々木 事故が起こった場合、所有者の責任となるが対応は。

建設課長 所有者に責任が生じる場合は、その負担を求める。あわせて、事前の伐採に協力してもらえるよう、広報を通じて周知に努める。

佐々木 木が茂っているため、救急車が遠回りをしていると聞くが、消防署との連携は。

建設課長 枝の張り出しによる迂回の事例はなく、時間短縮となる迂回ルートを選択することもある。

佐々木 観光ルートになっている道路について、近隣市町との連携は。

建設課長 県が管理する道路で異常を確認した場合は、県に要望している。町道の一部は、法面の全面を根元から伐採しており、パトロールや事前の対策で安全な道路の確保に努める。

町長 郵便局との協定、住民からの通報やLINEの活用などにより、他市町と連携して除草や伐採を進めたい。また、森林環境税や「ひろしま森づくり事業」を活用し、森林環境の改善にも取組む。



議員コメント 根源的な問題は、財務省の緊縮財政や林野庁の怠慢にあると思う。戦後、森林が放置され続け、花粉症や、鳥獣被害につながっているのではないか。

Q 故人の尊厳を守る終活支援の在り方は

A デジタル遺品も含め取組みを検討

松尾 一人暮らしで身寄りのない方が亡くなった場合の町の対応は。

町長 火葬・埋葬を行なう方が不在の時は、死体取扱規則に基づき福祉課で遺体を引き受け、葬祭業務を執り行う。費用は公費で負担する。お骨はやすらぎ苑納骨堂へ一時保管し、相続人の調査を行う。相続人がいれば、お骨の送致や葬祭費用の請求をする。現在、お骨の安置1件、遺留品保管1件、請求が1件ある。

松尾 「終活情報登録事業」^{※1}の実施に対する考えは。

福祉課長 地域包括支援センターで、65歳以上の単身高齢者の終活相談を行っている。今後も他市町の事例を調査・研究する。

松尾 エンディング・サポート事業^{※2}を実施する考えは。

福祉課長 死くなった後の手続きに不安を抱く方が多いと認識している。自治体が行なう終活支援の情報収集に努め、また葬儀などの生前契約の支援も含め検討する。

松尾 エンディングノートにデジタル情報も必要ではないか。

福祉課長 デジタル遺品の廃棄やサイトの閉鎖、サブスクの解約などに苦労されている。他の自治体にならって、終活ノートの再編を考えたい。

※1 終活情報登録事業…高齢者が葬儀や医療、緊急連絡先などの情報を自治体に登録し、本人が対応できない時に家族や関係機関へ伝達する制度

※2 エンディングサポート事業…低所得で身寄りのない高齢者が、葬儀から納骨までの希望を葬祭事業者と生前に契約し、その円滑な履行を町が支援する制度

Q 授乳室の設置とマークの表示を

A 増築する授乳室にマークを表示する

松尾 本町における現状は。

子育て支援課長 庁舎内に授乳室はないが、スペースの確保を検討する。現在「授乳・搾乳できます」マークを子育て支援課の案内板に掲示している。今後の保健福祉センター増築工事に伴い、設置予定の授乳室にマークを表示したい。



議員コメント 今後、終活支援は重要になります。故人の尊厳を守る終活登録事業、エンディング・サポート事業の早期実現をめざします。

若者定住

かみもと つよし
上本 剛 議員



農業振興

かめだ としひろ
龜田 知宏 議員



Q 地域に雇用を創出し 人の流入と定着を

A 就労環境や住環境の充実で 若者定住を図る

上 本 若者が進学や就職を機に町へ戻らない現状がある。町の認識は。

町 長 重要な課題であり、人口減少や地域活力の低下、担い手不足につながると懸念している。雇用の創出や通勤助成などを通じ、若者の定住・Uターンの促進に取組む。

上 本 サテライトオフィス誘致事業において、必要な支援策、戦略的な拠点エリアの設定、企業や専門家の意見の反映、町の今後の方向性は。

商工観光課長 企業の誘致にあたっては、特定のエリアに限定せず、企業の多様な要望に応じて事業展開ができるよう支援する。企業や専門家からは「リモートワーク普及で拠点設置の必要性が薄れた」との意見が多く、関係性重視の取組みに転換している。

上 本 二拠点居住を視野に入れた制度設計や空き家活用の具体策は。

企画課長 町の空き家・空き地バンクは移住・定住促進を目的に運用しており、二拠点居住に特化した施策はない。二拠点居住は利点もある一方、行政サービスや地域との関わりに課題があり、今後はニーズ把握や他自治体の事例研究を進め、制度拡充を検討していく。

上 本 サテライトオフィスや二拠点居住、宿泊客の増加という分野において、町として成果をあげるための目標期間は。

企画課長 令和8年度から5年間の第3次総合戦略を策定中で、若い世代が働きやすい環境づくりを重点に、就労・住環境の充実を図る。

議員コメント 町が若者の転出という深刻な課題を認識し、定住促進や地域活性化に向けた具体策として、仕事づくり、サテライトオフィス誘致、二拠点居住などを推し進め、若者に選ばれるまちづくりを目指すことにより、地域の持続的発展を期待します。

Q 持続可能な農業の実現は

A 高付加価値化と省力化で 持続的農業を推進

龜 田 政府の米増産方針に対する受け止めは

町 長 本町は中山間地域で平地が少なく、小規模農家が多いため、大規模な増産や輸出対応を進めるのは容易ではない。地域農業を持続させるには、ブランド化や高付加価値化による差別化、農地の有効活用、省力化技術の導入や機械の共同利用といった工夫が必要である。

龜 田 農林業振興対策事業の見直しは。

産業振興課長 これまでの導入実績や効果を検証するとともに、国や県の施策の動向、集落法人などの今後の在り方や雇用環境の変化も踏まえ検討する。既存制度を補完し得る新たな支援の導入も視野に入れ、事業の見直しを検討する。

龜 田 スマート農業の推進は。

産業振興課長 活用実績や効果を検証するとともに、進化・開発が進むスマート農業機械や技術の動向も踏まえ、補助内容を柔軟に見直す。あわせて、国や県の支援制度を最大限に活用し、スマート農業の普及拡大に努める。

龜 田 渇水対策は。

産業振興課長 近年の高温や少雨、局所的な豪雨は一時的な異常気象ではなく常態化しつつあり、農業用水の安定確保についても毎年の課題となるのではないかと危惧している。農業者自らが水源を確保する取組みへの支援策を国・県の渇水対策も踏まえながら検討する。



渇水を乗り越え、実りの秋を迎える

議員コメント 持続可能な農業を目指すためには、現行の施策の見直しをする時期に来ていると考えます。考え得る限りの策を講じていただき、来るべき未来のために尽力願いたいです。

臭気問題

さくら ゆうき
佐倉 悠希 議員



Q 宇津戸臭気公害問題の決着は

A 住民の声を聞き 問題解決に取組む

佐 倉 30年以上にわたる臭気問題では、第3

牧場の閉鎖が発表され、一見すると一定の進展が見られた。しかし、第4牧場においては、これまでにも基準値を超える臭気が測定されており、問題の根本的な解決には至っていない。町は臭気の原因をどのように考えているか。

町 長 臭気問題の主因は第3牧場だと考えているが、第4牧場においても臭気はある。十分に事業者と協議し、真摯に住民の声を聞き、解決に向け取組む。

佐 倉 県立広島大学の研究で、木が落葉する12月に第4牧場の臭気が山を越えたという資料があるが、見解は。

町民課長 第4牧場からの臭気が住宅地域へ届く可能性は否定できない。第4牧場だけになっても臭気問題に取り組む。

佐 倉 今後、さらなる対応が必要になった場合、親会社からの支援による施設整備を選択肢として町は考えているか。

町民課長 施設の建て替えには億単位の資金が必要になる。その規模になると事業者ではなく、親会社の判断になると事業者から聞いている。

佐 倉 第3牧場を閉鎖した後、第3牧場の臭気測定は継続するのか。

町民課長 実施する予定はない。

佐 倉 今後の町の対応が、この問題の在り方を大きく左右すると考えるが。

町 長 解決へ向けて、親会社へ足を運んでいければと思っている。これまで以上に取組みを進める。



閉鎖予定の第3牧場

議員コメント 臭気問題は世羅町の最も重要で、かつ深刻な問題の一つである。1日も早く問題が解決するよう、町は人材と予算を惜しみことなく投入し、取組んでいただきたい。

公共交通

むかいだに しんじ
向谷 伸二 議員



Q せらまちタクシーの課題改善は

A 運用見直しと 新規利用者の獲得に努める

向 谷 現状の問題点と対応策は。

町 長 利用者の減少、財務負担の増加、交通事業者の乗務員不足などがある。持続可能な公共交通の実現を目指すため、ダイヤ改正や、運賃改定などの運用見直しを行った。

向 谷 見直し案では、同じ町内で1.5倍の運賃になる地域もある。世羅町全体として同一運賃による公共交通サービス提供という考え方はなかったのか。

企画課長 町内一律の料金設定も検討したが、現行制度では世羅・甲山区域と世羅西区域という2区域制度を用いていること、公共交通は距離による料金設定が基本的な考え方であることを考慮した。

向 谷 せらまちタクシーの認知状況に関するアンケート結果では、利用していない65歳以上の町民の中で「利用方法は知らない」が18%、「運行内容は知らない」が53%、「名前も聞いたことが無い」が2%、と答えている。周知不足が利用者の減少につながっているのでは。

企画課長 認知不足は課題である。利用者の減少は、新規利用者が増えていることが原因と認識している。乗車説明会や乗車体験を実施し、利用者の増加につなげる。

向 谷 70代の89%、80歳以上の約57%が日常的に運転している。高齢者がスムーズに公共交通に移行できる取組みは。

企画課長 高齢者が集まるサロンなどを中心に乗車体験をしていただき、利用を促していく。



デマンドタクシー

議員コメント 高齢者が安心して免許返納し、公共交通に移行しやすい取組みや、町民が納得できる公平感のある公共交通サービスの構築を要望する。

公共施設管理

宗重 博之 議員



縮充

藤井 照憲 議員



Q 公共施設の今後と町の将来は

A 費用や安全を考慮し 計画的に整理活用する

宗 重 国が示す「公共施設3割削減」に対し、約5%の削減にとどまっている。町の見解は。

町 長 人口減少を踏まえ、25年間で延床面積を30%以上削減する目標を設定している。現状は4.9%だが、国や県の支援を得ながら統廃合・集約化を進める。

宗 重 中間目標や優先順位などの基本方針を町民に示すべきでは。

財政課長 令和22年までの長期的な取組みだが、施設ごとの計画は個別計画で定め、利用状況や老朽度を総合的に判断し、住民意見を聞きながら進める。

宗 重 新給食センターの稼働状況と旧給食センターの処分方針は。

教育長 衛生管理などに問題なく、味や量も好評。温かい世羅米も評価されている。

子育支援課長 保育所給食は安全に提供され、毎日検食し、残菜を確認したうえで改善を図っている。

財政課長 旧世羅学校給食センターは今年度中に売却する予定。旧世羅西学校給食センターは利活用を含め検討中。



宗 重 せら文化センターなどの照明は、未だハロゲン電球。全国ではLED化で光熱費を削減している。町も検討すべきでは。

社会教育課長 効果は認識しているが、具体的な計画は未定。更新時期や補助制度を踏まえ検討する。

議員コメント

公共施設マネジメントは、長期の総合計画だけでは実効性が見えにくい。町民にきちんと説明できる個別戦略と具体的な行動計画が必要であると強く指摘したい。

縮充

藤井 照憲 議員



Q 公共施設のマネジメントは

A 計画的な維持修繕を図る

藤 井 公共施設の維持管理などに包括民間委託を導入することで、民間のノウハウを活用しながら、管理業務の質の確保及び効率化、修繕コストの削減が可能となる。導入する考えは。

財政課長 包括民間委託は、複数の公共施設の維持管理業務を民間事業者に一括委託するもので、業務の効率化・コストの削減・職員の事務量の削減・サービスの品質向上などを図ることができる。一方で、コストの増加も考えられ、メリット・デメリットを精査し、本町の維持管理業務に適した手法を検討する。

藤 井 「縮充」とは、縮小と充実から構成される。地域が縮小していくことを悲観的に捉えるのではなく、人口が減っても豊かに暮らせる充実した社会を目指すことである。この縮充の概念をまちづくりに取入れる考えは。

教育長 30年後的小中学校の児童生徒数は、現在の945人から270人程度が想定される。地域の人口も縮小すれば、学校と地域が共に子どもを育む環境を、整えることが必須となる。学校の統廃合・学校再編に、縮充の概念を取り入れると、数字上の縮減を逆手にとった、少ない・小さいからこそ何ができるかの発想で、教育環境構築に取組む必要がある。

藤 井 様々な場面で住民参加を進めれば、原動力になる人が育ち、また、新しい人が育つ。住民参加の取組みは。

企画課長 地域の皆さんと行政が将来を一緒に考える機会を増やし、人口減少の中での地域づくりを推進する。

議員コメント

現状の事務事業見直しや、効率的な執行への転換および縮充の視点を取り入れた、長期計画策定並びに住民参加の一層の推進を進めてもらいたい。

水道水流出事故

矢山 靖 議員



Q 責任の明確化とその対応は

A 戒めとして減給し責任を負う

矢 山 7月10日、甲山中学校において、水道排水栓を閉め忘れたため、1730m³ (25mプール約6杯分) ものの水が流出し、損害金88万円を町が負担すると公表があった。町民から厳しい批判や不安の声が多数寄せられている。

まずは、町民に対して謝罪し、納得のできる説明を行うべきではないか。

教育長 「大変なご迷惑とご心配をおかけしましたことについて、この場をお借りして全ての町民の皆様に対しまして改めて深くお詫び申し上げます。」その時点では流出量や金額が確定していないなかったため、数値が確定するのを待つという判断をした。

矢 山 管理職の立場にある校長などに責任は求めないのか。

教育長 厳重注意をし、再発防止についての指導を行った。

町 長 当事者に求めるのではなく、町長・副町長は給料月額の1割を減じた額を1か月、教育長は給料月額の1割を減じた額を3か月間の合計29万3900円を減給する。賠償するという形ではなく、戒めとして責任を負いたい。

矢 山 町としての責任ある管理体制は。

町 長 マニュアルが整っていなかったことが問題であり、どの部署・どの場所であっても、適切な手順に従って物事を進めていくことが当然である。伝達事項も、その時期において適切に行われるべきだった。今後は職員に対して徹底した指導を行うべきであると考えている。

矢 山 損害金はどこの予算から支出するのか。

学校教育課長 学校教育予算の需用費・光熱水費から支出する。直接的な教育活動に影響を及ぼすものではない。

矢 山 最終責任をどのように果たすのか。

町 長 適切な管理に努めていく。

議員コメント

この件を契機に、管理体制を徹底的に見直し、執行部自らが襟を正す姿勢を実際の行動で示すことが、必要ではないか。

世羅チャレンジ大学の 皆さん議会を傍聴

9月4日、22名の皆さんが一般質問を傍聴に来られました。傍聴後に感想をいただきましたので紹介します。

主な感想

- モニターが有り良かった。AIの即時言葉変換にビックリした。
- ケーブルテレビで観るより緊張した雰囲気が感じられた。
- 「議会だより」を読んでいるが、実際の議場を体験できて良かった。
- 町の現状を知り、これからの町の運営について皆が知るべきだと思った。(町の取組みも、少し理解できた)
- 議員さんそれぞれに勉強されており、頼もしく感じた。
- 行政の回答は予算問題が有るためか、具体性に欠けると思った。
- 女性ならではの問題を提起・解決へと取組んで頂き嬉しいです。
- ゴミ・終活・雇用と身近な問題を、住民生活のために町民の意見を取り入れられている事に、安心と希望を感じました。
- 女性議員さんが増えて欲しい!
- 皆さん真摯に議論されており「こういうスタイルで町の政治が生まれるのか」と感心しました。(大変有意義な時間をありがとうございました)

広報コメント

議員も「多くの傍聴者の前で緊張した」と言っていました。テレビ放送とは違った臨場感を味わっていただけたと思います。傍聴に来ていただきありがとうございました。

今後も、多くの皆さんの傍聴をお待ちしております。

議会広報にご意見を お寄せください。

- 今号でよかった内容
 - 取上げてほしい内容
 - 議会広報に対する意見・感想
- gikai@town.sera.hiroshima.jp



地域イベント紹介

「西大田で遊ぼう会」

西大田地区振興会連絡協議会主催の「西大田で遊ぼう会」を行ってきました。

以前開催していた「西大田ふれあい祭り」を大幅リニューアルし、3年前から子どもを中心としたイベントに変わりました。

当日は天候にも恵まれ、地区内外から多くの世代の方が来場し、コンサートや体験コーナーなどを楽しんでいました。井上自治センター長は、「今年は地域内の子どもたちが考えたアイデアを採用し、より楽しんでいただけるイベント企画にしました。子どもたちのアイデアが功を奏し、大盛況で来場者にも楽しんでいただけたと思います。改めて子どもたちは地域の宝だと実感しました。」と話されていました。



TAKE-1 グランプリを
楽しむ子ども達

表紙紹介

せら社協フェスタ2025開催

令和7年10月4日(土)今年も社協フェスタが盛大に開催されました。幼児からご高齢の方まで多くの方々が来場され、ステージの観覧や体験コーナーなどを楽しんでいました。

世羅町議会では来場者に「どれくらいの方が議会だよりに目を通されているか」シールでのアンケートを実施しました。また、次のようなコメントもいただきました。

- ・議会の役割や活動を知ることができ、関心を持たないといけないと思った。
- ・補助金のことを詳しく書いてあればと思います。
- ・自分の気になる記事は読んでいます。



アンケート結果

議会だよりを読んでいる…101名

議会だよりを読んでいない…23名

議会を傍聴しませんか

傍聴方法

●本会議の受付所 役場2階 議場前 傍聴人受付票に氏名などを記入
※入退場自由／定員28人 ※車いす用リフトあります。

12月議会

令和7年第4回定例会(予定)

※日程は変更になる場合があります

日	月	火	水	木	金	土
	12/1	2	3	4 本会議 一般質問	5 本会議 一般質問	6
7	8 本会議 議案審議	9 予備日	10 産業建設委員会	11 総務文教委員会	12 議会改革委員会 議会広報広聴委員会	13
14	15 予備日	16 本会議最終日				

※開会は午前9時からの予定です。

議会広報広聴常任委員会

委員長 向谷 伸二 副委員長 松尾 陽子

委員 亀田 知宏・佐倉 悠希・矢山 靖・佐々木浩康

世羅町議会ホームページ

右の2次元コードを読み取ってアクセスしてください

